

# 一流は一流を 知る

父・六世野村万蔵の幼名である「万作」を襲名して60年、「思うのは、いかに基本が大事であるかということです」と語る狂言師・野村 万作氏。戦後に「笑い」の伝統が軽んじられるなか、新しい取り組みに挑んで突き進んできた狂言の道。真っすぐな目線で探求し続けるのは、和やかで楽しく、品格ある「和楽」の世界。

## 探求し続けるのが芸の道

狂言の世界は「猿に始まり狐に終わる」とされています。3歳で『鞆猿(うづまざる)』の小猿役で初舞台を踏み、62歳のとき、それまで幾度となく演じてきた『釣狐』を演じ納めました。しかし私は、どうしてもまだ至っていなかったと思うのです。たとえ体力は落ちて、舞台への思いというものは深まっていく。こう演じたい、もっと深めたいという思いが膨らんでいきました。一昨年、16年ぶりに上演した『釣狐』では、老体なので面を着けず、装束も着けず、紋付き袴姿の「袴狂言」で前シテを演じました。素面でも狐に見えたといいます。うまくできたかどうかというのではなく、面も装束も着けずに挑んだ意味が芸にプラスになった。たとえ体力は落ちて、形を変えても、探求し続けるのが芸の道だと思うのです。



『鞆猿』撮影：吉越 研

私は幼少のころから、稽古をすればご褒美をくれる優しい祖父と、さぼって遊びに出かければ探し出して連れ戻すほど厳しい父に教わりました。戦争で家も衣裳も焼かれ、伝統芸能を今後、本当に伝えていくことができるのかどうか危ぶまれていた時代でした。若い私にとっては、稽古に加えて礼儀や作法なども厳しくつけられる面倒な世界。なぜ狂言という特殊なことをしなければいけないのかという疑問が芽生えてきたときもありました。例えば、舞台上に登場した人物が名乗るときの言葉、「この

辺りの者でござる」。狂言には伝統的な物の言い方があり、独特の抑揚を付けて声に出して心持を表現します。伝統的な型があって、その上で動くのが狂言なのです。若いころ私は、このような型にはめ込まれることの意味、あるいは意義というものが分からなかった。狂言は創造性や個性など何もない、つまらない世界だと思い込んでいました。

## 伝統的だが、新しい

中学を出てからは、新劇やレビュー、映画などをよく観ました。どの分野も狂言と違って、自由に伸び伸びとして魅力的でした。新しい映画や舞台から次第に古いものにも関心を抱くようになったころ、旧制の高校1年のときに

魅せられたのが歌舞伎でした。特に当時、名人と称されていた六代目尾上菊五郎には心を奪われました。菊五郎の歌舞伎は、古い伝統的な芝居をやっているが中身が新しい。たとえ伝統芸能であっても、舞台にリアルな真実味がありました。伝統的なのに、新しいのです。こんなにも素晴らしい舞台ができるものなのかと驚きました。狂言の修業はひたすら模倣することから始まりますから、型にはめ込まれる稽古をしても何のための稽古なのか私には分かっていなかった。古典の抑揚のなかに真実味や心を生かす力がなければいけなかつ



袴狂言で演じた『釣狐』撮影：政川 慎治

た。菊五郎の舞台をきっかけに、よその畑から自分の畑を見て初めて、狂言はもっと広がりのある世界なのではないかと気づいたので。そしてあるとき、父の舞台を見て息を飲みました。なんて創造的な舞台なのかと。それは私が修業していた段階の狂言とはまるで違う芸でした。

以来、父が亡くなるまで私は、ただただ父を追いかけてきました。父離れが遅いと言われたこともありますが、遅くて結構。父が生きているあいだは芸のことはもちろん、生きるすべてが父の元がありました。父は生前、「万作がいる限り、狂言は安泰だ」と言っていたと聞きました。30代、40代ごろ、それほど私は狂言に必死になっていたのです。ただ私には、六代目菊五郎に刺激を受けた姿もありました。師匠の芸に始まって、なんとかそれに新しいものを加えていきたいと、仲間たちと狂言に限らず数多くのことに挑みました。それでも私は繰り返し繰り返し必ず古典に立ち戻り、父に稽古を付けてもらいました。私には、古典で生きていく覚悟があった。よその世界に惹かれても、古典が必ず手綱を引いてくれました。新しいことに挑戦すること、そして古典に立ち戻ること。伝統芸能に生きる者が直面するその境目には芸の厳しさがあると思います。

# 狂言とは「和楽」の世界。 和やかに楽しく、真っすぐな目線で。

## 真っすぐな目線で生きる

狂言において、「笑い」とは和みの笑いです。決してどぎつなく、和やかで楽しい。ある外国の研究者がこんなことを言っていました。主人と家来とが「やるまいぞ」「ごゆるされませ」とけんかをしても、幕が下りればきつとふたりはシェイクハンドしているだろうと想像できるのが狂言なのだ。なるほどと思います。笑わせようとして



『川上』撮影：政川 慎治

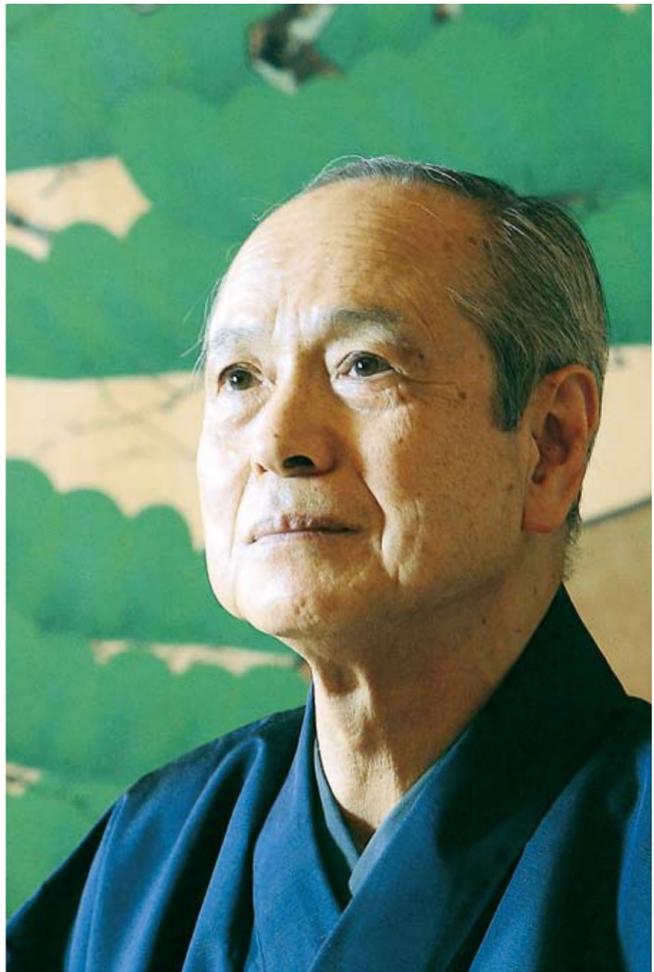
ているのではなく、笑いを含んだ品格といえましょうか、狂言は人を許し合うシェイクハンドの笑いなのだ。

私は、狂言とは和らぎ楽しむ「和楽」だと思うのです。600年のあいた培ったなかではくまれた「笑い」で

人々に和みを与え、幸せを与える。それができるように芸を磨くのが狂言なのです。

父は上の者にこびず、へつらわず、下の者に威張らずに真っすぐな目線で生きていた人でした。そういう生き方であれば、太郎冠者もうまく勤まるのではないかと思います。太郎冠者は狂言の代表的な人物です。一流の舞台というものには芸だけではなく、演者の人格が反映するもの。それは人間としての魅力、包容力、あるいは人柄で

しょうか。肩書きでは決して判断できないそういったものは、舞台にも現れるものだと思うのです。真っすぐな目線で生きよと語った父が亡くなり、自分の道を歩き始めて30年余り。私も亡き父と同じ年齢を迎えました。



## 狂言師 野村 万作

(のむら・まんさく)

1931年、東京都生まれ。六世野村万蔵(人間国宝)の次男。早稲田大学文学部卒業。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感をたたえた品格ある芸で魅了する。ネスカフェCM、『子午線』の視覚的演出など狂言師として新たな試みに挑み、現在に至る狂言隆盛の礎を築いた。海外公演のほか、ハワイ大学、ワシントン大学で客員教授を務めるなど国内外で狂言の普及に貢献。芸術祭大賞、日本芸術院賞、紀伊國屋演劇賞、楽観賞章、坪内逍遙大賞など受賞多数。2007年、重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。「万作の家」主宰。

## 〔謹賀新年〕

自然の恵み、伝統の技、人の手で作る本物の旨さ。

全国各地への発送も承っております  
お申し込みはフリーダイヤル(料金無料)をご利用ください  
0120-1728-19  
■通話料無料 ■ 24時間受付

インターネットからもご購入いただけます <http://www.kanbun.co.jp>

- お届け先1か所につき商品合計額が5,250円(税込)以上は、送料無料で。5,250円(税込)未満の場合は420円(税込)となります。
- お支払いは、郵便局・コンビニ・代引(手数料315円(税込))・クレジットカードでお願いします。(21,000円以上お買上げの場合は、代引またはクレジットカードで)
- 商品のお届けはご注文受付後、通常7日前後です。着日指定も承ります。
- ご不明な点は、上記フリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください。
- 沖縄県、離島へのお届けの場合は、離島配送料金630円(税込)を、別途加算させていただきますのでご了承ください。

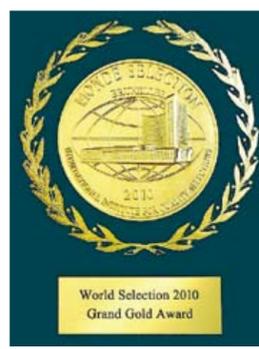
いかにむ手鞠うどんつゆ詰め合わせ/木箱  
WSA50N  
5,250円



いかにむ手鞠うどん/木箱  
WK100(うどん200g×5袋)5,250円



モンドセレクション一九九九年〜二〇〇四年  
十二連続「最高金賞」受賞  
国際最高品質賞 二〇〇一年・二〇〇四年・二〇〇七年・二〇一〇年受賞



モンド・セレクション 2010 最高金賞「ゴールドメダル」

# 寛文五年堂

秋田県湯沢市稲庭町字三嶋34 TEL0183 (43) 2114・FAX0183 (43) 2855 URL <http://www.kanbun.co.jp/> ご注文専用 ☎0120-1728-19 受付時間 9:00~17:00 (月~金)  
 ■秋田市・秋田西武、秋田サティ、ジャスコ各店、藤木、秋田県産品プラザ(アトリオン地下1階)、秋田市民市場 加藤本店、石川酒店(トピコ2階) ■大館市・いとく大館ショッピングセンター、他各店 ■鹿角市・関小市商店 ■大仙市・タカヤナギ各店、大阪屋、停車場こまち ■横手市・横手サティ  
 ■由利本荘市・イオンスーパーセンター各店 ■にかほ市・泉屋商店 ■仙北市角館町・角館こだわりの蔵 ■湯沢市・小川忠太郎商店、カドヤ ■東京銀座店/東京都中央区銀座七丁目6-5(石井紀州屋ビル1階) ■秋田キャッスルホテル/秋田市中通一丁目3-5(秋田キャッスルホテル2階)